

複数の需要期に出荷可能な夏秋コギク品種の選定			
[要約] 電照を使用して7月東京盆、8月旧盆、9月彼岸の3つの作型に出荷が可能な品種は、「はるか」、「ホタル」である。7月東京盆、8月旧盆の2つの作型での出荷が可能な品種は、「精こまき」、「すばる」、「精ちぐさ」、「やよい」である。			
農業総合センター園芸研究所	平成25年度	成果区分	技術情報

1. 背景・ねらい

夏秋コギク栽培では出荷期により異なる品種が使用されるため、生産管理の煩雑さや品質のばらつきが問題となっている。近年、茨城県では露地電照栽培が普及してきており、開花日の制御が可能になってきた。そこで、品種数を削減するための技術として、電照の利用により複数の作型で出荷が可能な品種を選定した。

2. 成果の内容・特徴

1) 電照終了から採花までの日数（到花日数）は、作型が遅く、電照終了日が遅くなるほど短くなるが、その変化の程度は品種によって異なる（表1）。「たそがれ」のように到花日数が作型によって変化しやすい品種よりも、「はるか」のように到花日数が変化しにくい品種の方が複数の作型での生産に適する。

2) 花房の上端を基準としたときの頂花の高さは、品種・作型・電照期間によって変化する場合がある。「はるか」は作型や電照期間によって影響を受けないが、「やよい」は9月出荷作型で頂花の位置が低くなり、電照期間が長いほどより低い位置に着生する（表1）。このように、電照により採花日を遅くしすぎると花房形状が変化し、商品性を損なう場合がある。

3) 採花日、頂花の高さ（-6cm以上）を選定基準とすると、7月東京盆、8月旧盆、9月彼岸の3つの作型に出荷が適している品種は、「はるか」、「ホタル」である。7月東京盆、8月旧盆の2つの作型での出荷が適している品種は、「精こまき」、「すばる」、「精ちぐさ」、「やよい」である。

3. 成果の活用面・留意点

1) 到花日数は、地域、気象、栄養状態、摘心日、親株及び苗の管理方法等により変化するので注意が必要である。地域における過去の電照栽培の記録を参考にして電照終了日を決定したい。

2) これらの品種を9月彼岸出荷作型で生産する場合は、摘心日までに電照を開始しなければならない。6月中下旬から電照を開始する「移設」栽培では早期開花する場合がある。

3) 照度が低いと十分な電照の効果を得られず、早期開花の原因となる。ほ場の末端などの暗い位置を避けて栽培し、電照の開始時に照度を測定するなどして、十分な照度が確保されるように配慮する。

4. 具体的データ

表1 定植日及び電照終了日が採花日及び頂花の高さに与える影響

定植日	電照終了日	採花日 (到花日数 ¹⁾)		頂花の高さ ²⁾ (cm)	
		はるか	たそがれ	はるか	やよい
3/26	無電照	7/ 4	6/28	-1.0	-2.0
	5/14	7/ 7 (55)	6/27 (44)	-0.6	-2.0
	5/21	7/11 (52)	6/28 (39)	0.0	-0.9
4/24	無電照	7/ 9	7/10	-0.1	-3.8
	6/ 7	7/28 (52)	7/12 (36)	0.0	-1.5
	6/14	8/ 4 (52)	7/13 (30)	0.0	-1.6
	6/21	8/11 (52)	7/11 (20)	-0.3	-3.4
5/27	7/25	9/ 7 (45)	8/16 (22)	0.0	-15.9
	8/ 1	9/14 (44)	8/18 (17)	0.0	-23.3
	8/ 8	9/19 (42)	8/19 (11)	-0.8	-30.6

注1) 到花日数は、電照終了日から採花日までの日数を示す。

注2) 頂花以外の花房の最上部に対する頂花の高さ。

正数は頂花が高く、負数は頂花が低いことを示す。

表2 同一の夏秋コギク品種による複数作型の生産

品種	定植日	電照終了日	採花日	頂花の高さ ¹⁾	不良判定 ²⁾
はるか	3/26	無電照	7/ 4	-1.0	
	4/24	6/14	8/ 4	0.0	
	5/27	8/ 1	9/14	0.0	
ホタル	3/26	無電照	7/ 6	-1.1	
	4/24	6/21	8/ 7	-1.3	
	5/27	8/ 8	9/17	+0.4	
精こまき	3/26	無電照	7/ 2	-2.1	
	4/24	6/14	8/ 1	-5.3	
	5/27	8/ 8	9/19	-29.4	B
すばる	3/26	無電照	7/ 9	-3.7	
	4/24	6/14	8/ 3	-0.5	
	5/27	8/ 8	9/14	-6.6	B
精ちぐさ	3/26	無電照	7/ 6	-0.9	
	4/24	6/21	8/ 1	-1.1	
	5/27	8/ 8	9/20	-13.2	B
やよい	3/26	無電照	7/ 9	-2.0	
	4/24	6/21	8/ 5	-3.4	
	5/27	8/ 8	9/ 7	-30.6	A、B

・同一の親株から採穂し、3つの作型の苗とした。摘芯日（定植日より約1週間後）より電照を開始した。

注1) 頂花以外の花房の最上部に対する頂花の高さ。

正数は頂花が高く、負数は頂花が低いことを示す。

注2) Aは採花日が需要期と一致しないために不適當であること、

Bは頂花の位置が低いために不適當であることを示す。

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

キク生産・流通イノベーションによる国際競争力強化・平成24～平成26年度・花き研究室